

医政メモQ&A

平成14年度医療費の動向について

厚生労働省は、8月8日平成14年度医療費（概算医療費）の動向を発表しました。医療費全体は30.2兆円と前年度比0.7%減で、伸び率がマイナスになったのは平成12年度の介護保険制度導入時を除けば、昭和59年の調査開始以来初めてのことです。診療報酬マイナス改定と老人の定率負担導入の影響の大きさを反映したものといえそうです。厚労省は、平成14年度の予算編成にあたって、マイナス改定と老人の定率負担を導入しても医療費は1%増えると予測しており、今回の結果とは約2%の乖離があり、その試算方法に対する論議を呼ぶとともに、次回診療報酬改定にも影響を与える可能性があります。

Q：医療費の動向とは

A：厚労省は、昨年度から旧来の支払基金や国保連合会の支払決定金額等から得られるMEDIASに基づく医療費からこれに公的負担医療を加えた「概算医療費」を発表しています。概算医療費は国民医療費の97%をカバーするもので、医療費の速報値とされています。

Q：医療費の動向の内容は

A：表に示したように、全体の伸び率0.7%減で、制度別では被用者本人が3.3%減と大幅な減少を示しています。また、医療機関種類別では、病院が平均で1.2%減、診療所が平均4.4%減となっています。

Q：診療科による違いは

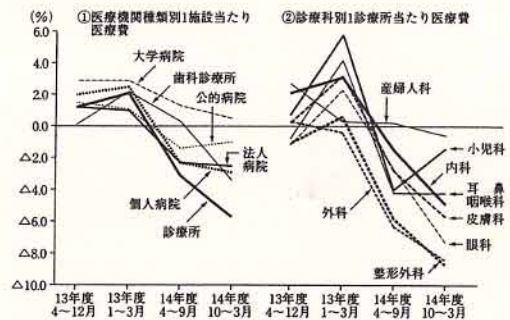
A：表の中にあるように、診療所のなかでも外科が7.3%減、整形外科が7.2%減と診療所の平均4.4%減を上回る減少率を示しています。このような診療科による違いは、診療報酬改定の影響とされています。

また、図にみられるように、医療機関種類別一施設あたりの医療費の伸び率では、各医

表 平成14年度医療費と伸び率

	伸び率(%)	医療費(兆円)	
		平成14年度	平成13年度
総計	△0.7	30.2	30.4
被用者本人	△2.8	9.4	9.7
家族	△3.3	5.0	5.2
国民保険者	△2.3	4.4	4.5
高齢者	△0.2	7.7	7.8
公費	0.3	11.7	11.7
	3.2	1.2	1.2
医療費(百万円)			
病院	△1.2	1,808	1,831
大学	0.9	11,007	10,908
公的	△1.2	3,707	3,753
法人	△2.4	1,243	1,273
個人	△2.6	600	617
診療所	△4.4	91	95
内科	△3.3	92	95
小児科	△2.6	71	73
外科	△7.3	94	102
整形外科	△7.2	110	119
皮膚科	△4.2	74	77
産婦人科	△0.2	58	58
眼科	△5.0	96	101
耳鼻咽喉科	△4.2	72	75
その他	△8.7	117	128
歯科診療所	△1.6	39	39
保険薬局	5.1	84	80

図 医療費の伸び率



療機関種類別とも14年度後半の落ち込みが著明です。ことに医科と歯科の診療所の下落幅が目立っています。診療科別では、前述のように外科、整形外科の伸び率の減少が突出しています。

Q：医療費の減少の原因は

A：4月の診療報酬のマイナス2.7%の改

定、10月の高齢者自己負担の完全定率化に加えて、老人慢性疾患外来総合診療料の廃止によります。一施設当たりの病院の医療費を病床規模別に見ると、プラスの伸びを維持できたのは500床以上のみで、その他はすべてマイナスですが、なかでも100床未満の中小病院が14年度後半も落ち込みました。

また、高齢者の受診率は1.2%減、一日当たりの医療費は5.5%減、一件当たり日数は5.3%減となっており、老人一人当たりの医療費は年度後半には11.6%減と大きく減少しています。

Q：平成15年度の動向は

A：日医の第3次レセプト調査（15年4月～6月診療分）では、3ヶ月の総点数は入院が前年同期比1.96%増、入院外が2.73%減で、全体で0.21%の減少となっています。なかでも、社保・本人は5.62%減であり、患者数も減少していて本年4月から実施された本人3割負担の影響が出ています。

また、支払基金の4月、5月支払確定状況でも6%台の減少を示しており、被保険者本人は医科入院で17.6%減で被扶養の9.2%減と比べ制度改正の影響が顕著です。

Q：次回診療報酬改定への影響は

A：日医坪井会長は、医療を平時の国家安全保障と位置づけ、その財源として266兆円の特別会計にもメスを入れるべきと主張しています。また、青柳副会長は厚労省の見通しの誤りを批判するとともに、「国民の理解が得られるよう、医療の安全等に関する経費等を考慮して、9月には、改定幅と重点項目をあわせて提示し、プラス改定を求めていく」としています。

しかし、政府は04年度予算概算要求水準で社会保障分野の自然増9100億円を2200億円程度圧縮する閣議決定しています。経済財政諮問会議で検討された「16年予算の全体像」には診療報酬と薬価を引き下げるという直接的な表現は使われていません。しかし、医療、年金、介護、生保等の分野で2200億円を削減するかの議論は先送りされ、年末の予算編成で決着させる方針です。

最近、財務省は講演会や「診療報酬・薬価改正の論点」等の論文で医療費の削減は必要とする姿勢を示しており、予断を許さない状況といえましょう。

（政策部担当理事 西里 卓次）

<表紙写真>

「能取湖のサング草」



キャノンEOS EA100～300
絞り 5,6 シャッター AE
フジフィルム

サング草は塩分の多い湿地帯に生える葉のない一年草。9月～10月にかけて群生。ヤチサングまたはアッケシ草とも呼ばれる。網走国定公園能取湖南岸が日本で最も美しい大群落がみられる。

買手 哲美 (西区支部)